

様式 1

完了報告書（平成 25 年度）

提出者 李 霞

提出年月日 2014 年 3 月 31 日

**【プロジェクト名】**

和文

グローバル化時代におけるアジアの教育戦略

——日本・中国・カタールにおける IB の実態を手掛かりに

英文

Strategies for Globalization of Education in Asia:

Focusing on the State of IB in Japan・China and Qatar

**【メンバー構成】**

研究代表者：李霞

幹事 中島悠介

メンバー 廖于晴

**【研究のねらいと目的】**（600 字程度）

近年、世界各国において国際バカロレア（International Baccalaureate、以下、IB）が急速に普及している。IB とは、非営利の教育機関である国際バカロレア機構（IBO）が主導している、国家の枠を超えて世界で認められている大学入学資格とそのカリキュラムのことであり、思考力や表現力、異文化理解や寛容性、責任感などを涵養することを目的としていることに特色がある。このような IB に関する研究は主に欧米諸国を中心に展開されてきたが、アジア諸国における IB の適用動向に関する研究はこれまで蓄積されてきたとは言い難い。特に、文化圏の異なる社会において、どのような背景から IB が導入され、展開されているのかを明らかにすることは、社会におけるグローバル化への教育の対応のあり方を議論する上で示唆が得られると考えられる。以上の問題関心から、本研究は、アジア諸国における国際バカロレア（International Baccalaureate、以下 IB）の導入の動向を、中国・カタールをの事例から明らかにすることを目的とする。また、IB のプログラムと卒業資格は初等教育から後期中等教育までの段階に対応しているが、本研究では後期中等教育段階にあたる DP（Diploma Program）を対象とする。

**【活動の記録】**

2013 年 10 月 13 日～19 日 中国における IB の実態—汇佳国際学校に対する調査を行った（北京・李霞）

2013 年 12 月 3 日 カタールにおける教育の国際化を巡る政策制度の動向に関する研究会を行った（中島悠介）

2013 年 12 月 25 日～27 日 中国における IB の実態—人民大学附属高校国際部に対する調査を行った（北京・李霞）

2014 年 1 月 6 日 中国における教育の国際化を巡る政策制度の動向に関する研究会を行った（李霞）

2014 年 1 月 17 日 中国における IB の実態調査に関する研究会を行った（李霞）

2014年1月28日 日本における教育の国際化を巡る政策制度の動向に関する研究会を行った(廖于晴)  
2014年2月21日 次世代研究プロジェクト発表会にて中国におけるIBの実態について発表した(李霞)  
2014年2月14日~22日 カタールにおけるIBの実態調査に関する研究会を行った(カタール・中島悠介)  
2014年3月3日 カタールにおけるIBの実態調査に関する研究会を行った(中島悠介)

### 【成果の概要】(800字程度)

本研究ではアジア諸国におけるIBの適用動向について、中国・カタールの事例から、主として以下の3点が明らかとなった。

①IBに関する理念がカリキュラムに一定程度反映されていること。

教育理念そして、カリキュラムの設置はIBOの定める通りになっていることが明らかとなった。つまり、本研究で事例としたIB校において、IBOが目指している教育理念、人間像などについて、IBOの発祥地の西欧と異なる文化、社会的背景を持つ中国やカタールにおいても重視されるようになってきている。

②IBの理念を踏襲しつつ、学校の設置目的に応じた独自の取り組みも行われていること

一方で、IB校はIBの理念を尊重しつつ、それぞれの国家の教育制度やIB校の設置目的に応じて様々な取り組みが行われていることが明らかとなった。例えば本研究で扱った事例から、カタールにおいてはイスラム教の科目が必修になっていたり、仕官学校という役割から、IBのカリキュラムに加え独自の訓練プログラム(射撃・無線など)が実施されていたりなど、IBの理念のみにとらわれない運営が観察された。

③卒業生の進学ルートは必ずしも国内に限定していないこと

IBは国際的に通用する卒業資格という特色を持つが、例えば中国においてはIBを得た場合、通常の学校体系の卒業資格かIB校としての卒業資格か選択しなければならず、IBを選択した場合、中国国内の大学には進学することができない。そのためIBの資格を獲得した卒業生は海外の大学へ進学することが余儀なくされる。一方で、カタールにおいては私立大学のほとんどが欧米の外国大学分校であり、国立大学でもIB資格が有効であることから、国内の大学にも比較的進学しやすい状況が整備されている。

以上をまとめると、本研究で扱った国々においては、グローバル化への対応としてIB校が普及してきた一方、その教育制度や社会的背景・設置目的に応じた運営がなされていることが明らかとなった。また必ずしも国家の教育制度と連動していないケースも見られ、IBの普及のためにはIBを教育制度の中いかに組み込むかが重要であることが示唆された。

### 【研究業績】

2014年2月21日 次世代研究プロジェクト発表会にて中国におけるIBの実態について発表した(李霞)

### 【通信欄】